

魅力あふれる芸術の結晶 ～青春の勢いそのままに～

高文祭速報新聞

発行
高文連
新聞専門部
山田・高農
追手前・小津
市商



実行委員の皆さんと「コットンボール」

7階に上がると目の前に出てくる「コットンボール」が迎えてくれる。コットンボールは、糸を使って美術工芸の生徒実行委員が「繋がる想い」をテーマに制作したものであ

る。実行委員長の高橋さんはこの作品に対する思いについて「去年のテーマであった繋がりも今年も大切にしたい」と話してくれた。今年の高文祭について、高文祭を知り尽く

第46回高知県高等学校総合文化祭1通称、高文祭が高知市文化プラザかるぼーと等で開催される。18部門に48校、総勢約3404人の文化部が参加している。今年はコロナ後初の通常開催となる。コロナによる活動の制限がなくなったことにより、思う存分に時間をかけて取り組めるようになったため、想像以上の力作が集まった。作品を通して生徒の思いが感じられる展示をぜひ見てほしい。

した高文連事務局の駄場綾乃先生にお話を伺った。コロナが例年より落ち着いた状況で初の高文祭、様々な変化が見られた。駄場先生は、

○魅力あふれる芸術の結晶
～青春の勢いそのままに～
○ここが見どころ！
(書道・漫画・美術・工芸・写真)
○清流の国ぎふ総文2024出場

2023高文祭入賞一覧 ◎清流の国ぎふ総文2024出場決定

【新聞】

- ◎最優秀賞 高知農業高校 「オアシス」
- ◎優秀賞 高知追手前高校 「追手前タイムズ」
- ◎優良賞 高知小津高校 「ハトの宅急便」

【写真】

- 最優秀賞 ◎土佐塾高校 2年 森下颯 「爛漫列車」
- ◎土佐高校 1年 陰山悠翔 「我が道を歩む」
- ◎高知高校 1年 土居モナ 「初日の出」
- 優秀賞 ◎土佐塾高校 1年 浜口雅臣 「瞬間に」
- ◎高知高校 2年 加藤東真 「アートなヤツら」

【美術・工芸】

- 平面
 - 最優秀賞 ◎高知小津高校 2年 山崎蒼彩 「ようせいの森」
 - ◎高知国際高校 1年 坂本彩芽 「透ける」
 - ◎高知高校 2年 増田光祥 「瞬II」
 - ◎高知国際高校 1年 岡崎歩 「MENYALOPHOBIA」
- 立体
 - 最優秀賞 ◎高知学芸高校 2年 清水咲弥 「セブンティーン」
 - ◎土佐高校 2年 吉野孝紀 「侵蝕」
 - ◎土佐高校 2年 北尾果子 「侵蝕」
 - ◎土佐塾高校 2年 佐久間檀 「中井 友憲」
 - ◎土佐塾高校 2年 楠瀬由華 「中井 友憲」
 - ◎土佐塾高校 2年 安岡美璃 「中井 友憲」
 - ◎土佐塾高校 2年 千嶋暖佳 「中井 友憲」

【書道】

- 奨励賞 ◎岡豊高校 2年 岡林愛菜 「臨 自書告身」
- ◎高知東高校 2年 高橋明日香 「臨 雁塔聖教序」
- ◎高知小津高校 2年 池澤未唯 「飛翔」
- ◎高知国際高校 2年 松本泰誠 「臨 伊都内親王願文」

コロナ禍からの変化について「今年は先生と生徒が一緒になって企画から実行までをしていて、凄く協力できています」と語ってくれた。今年も、手指消毒の徹底やマスク着用の強制など、コロナ対策として行うことは一つもないうことで、高文祭にも通常通りの風が吹き始める。また、今回の展示について駄場

漫画

先生は「毎年カオリティが上がっている各作品が見どころ」と話している。
入口にまんが甲子園のために描かれた5枚の応援フラフが並ぶ漫画・イラスト展。今年



「終わりにしましょう」

は15校から約170点の作品が展示されており、角の生えたファンタジー風の人物画から金魚が泳ぐフラフなど、多種多様な作品が見られた。荒廃した地で自らの頭に銃を突きつけ「終わりにしましょ」と告げる金髪の女性。この作品を描いたのは、土佐女子高校の漫画サークル部長、2年久竹花さんだ。久竹さんは特に目にこだわりの持っており、「目で顔の印象が大体決まるので、にじみやぼかし、ハイ

ライトなどを用いて大切に描いた」と話した。また普段描いている頬の赤みを描かないことで、切羽詰まった不安そうな少女の心境を表現したという。そういった細かな工夫に注目して欲しいと語った。

美術・工芸



「ようせいの森」

小津高校2年 山崎 登彩さん

「Yanagiの森」
作品のモデルは山崎さんの親友で、自分が思い描く明るい森を表現したそうだ。油絵で、制作期間は3ヶ月ほど。肌や木の質感の表現にこだわっており、鑑賞する際にもそこを意識して見てほしいと言っていた。山崎さんは人物を描くのは初めてで、人の特徴を探りながら描いたそうだ。今回の作品の出来栄は100点満点中90点で、マイナ

ス10点の理由は時間が足りなかったからと述べていた。

土佐高等学校2年 吉野孝紀さん

北尾男子さん「侵略」
テーマは、近年問題となっているプラスチックゴミによる海洋汚染。目をひいたのは体長1

分の丁寧な作られたウミガメだ。甲羅の中は青いライトで照らされており、海の生き物や、プラスチックの破片を食べている鳥がいた。製作者の吉野さん、



「侵略」

部までこだわり抜かれた作品の魅力が熱く語ってくれた。

高知国際高校 岡崎みなみさん

「旧世界か、新世界か」
この作品は「飢餓や海洋プラスチックゴミ問題」というテーマのもと、コモドオオトカゲをイメージして、しつぽ



「旧世界か、新世界か」

や肋骨をむき出しにし、飢餓を表している。30部以上の新聞紙、粘土やペットボトルを使用して、1ヶ月以上かけて製作したという。グーガンで模様をつける細かな作業が難しかったそうだ。
牙や爪などに使用した粘土は、あえて製作途中のような見た目にし、ゴミ問題が解決されていないことを示しながら、現状は変えられないという思いを込めた。全長は14センチメートルで、前足を自分の腕のサイズに合わせた想像上の大きさになってしまったそう。「口元に手を入れて写真を撮ってみて、アート作品として楽しんでくだ

写真

さ」と語ってくれた。

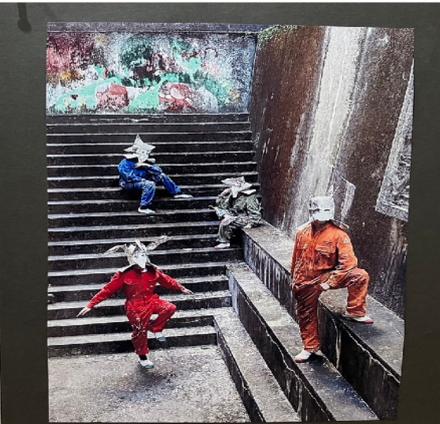
第4展示室では、各校の写真部による作品が展示されている。撮影者の感性から生み出される個性的な作品や、思わず魅了されてしまう作品など、心動かされる作品が集まっている。



「瞬間に」

高知高校2年 加藤東真さん「アートなやつら」

美術部でアーツマンという軍団を作り、先輩たちと話し合って協力し、おしゃれなポーズを撮って出展してみた。頭に被っている新聞の形には、それぞれモチーフがあり、鶴や手裏剣、紙飛行機



「アートなやつら」

など。不思議な世界観に惹き込まれる。
土佐塾高校1年 濱口雅臣さん「瞬間に」
その場にいた各校写真部の先生方は、「プロが撮ったレベルの写真で、どこか見たことがある」と評していた。そのような見覚えのある作品は賞は取りにくい。しかし、最優秀賞は逃したものの全国に行って欲しいという想いで優秀賞が付けられたそうだ。

書道

書道は元本の意を汲みアレンジする臨書と創作という二つのジャンルがあり、書体にも差があるが、まずは雰囲気や余白に注目すると良いようだ。同じ紙のサイズでも、作者に



土佐塾高校1年 道上穂佳さん 「太陽」

よって印象が異なる。まずは自分の心が惹かれた作品、迫力を感じた作品を選んで欲しい。楽毅論の作品を書かれた土佐女子高校の戸田あかりさんは、「細い線と太い線の強弱がはつきりしているところを注目して欲しいです。」と教えてくださった。
文字のかすがキラキラ光って見えたり、躍動感がでたりと、心躍るものばかりだった。

王徳之隆雖二城幾於
可拔霸王之事逝其速
矣然則燕雖兼齊其與
世主何以殊哉

臨 楽毅論